

新見市介護人材確保事業初任者研修の報告

合田 衣里¹⁾*・三上 ゆみ¹⁾・岡 京子¹⁾・山本 里香²⁾・高西 優男³⁾
松本 百合美¹⁾・佐藤 伸隆¹⁾・棚田 裕二¹⁾

1) 新見公立短期大学地域福祉学科 2) 新見公立大学学務課 3) 新見市役所総務部協働推進課
(2018年11月21日受理)

本学は、平成27～29年の3年間新見市の介護人材確保事業の委託を受け新見市介護人材確保事業初任者研修(以下、初任者研修とする)を実施した。本報告では、受講後の受講生に対するアンケート調査の結果を報告する。

講義内容の満足度についてはすべての受講生が満足したと回答しており、講義内容の程度については、「難しかったが何とかついていけた」26名(53%)、「ちょうど良かった」21名(43%)の回答が多かった。また、講師やその教え方について良い印象を持つ受講生が多かったことより、研修に対する受講生の満足度は高かったと考える。受講生の自己評価では【「介護」への知識・技術が習得できた】47名(96%)の回答が最も多かった。さらに参加費については「安いと思った」と回答した人が8割を超えていた。これらから、新見市で行った介護職員初任者研修は新見市内の介護人材の育成につながったのではないかと考える。

(キーワード) 介護職員初任者研修、新見市、ホームヘルパー

はじめに

本学は、平成27～29年の3年間新見市の介護人材確保事業の委託を受け初任者研修を実施した。なお、本事業は岡山県の平成27～29年度福祉・介護人材確保推進事業として新見市が初任者研修への補助金申請を行い委託を受けたものである。介護職員初任者研修は旧ヘルパー2級の養成研修に変わる資格であり、新見市内の介護人材の育成を目的に行った。

本研修は「岡山県介護職員初任者研修事業者指定等に関する要綱」に規定する介護員養成研修のカリキュラムに基づき130時間で構成し、毎週土曜日に約半年間かけて実施する(表1)。これらすべての時間を受講することで、介護職員初任者研修資格が得られる。また、受講定員は20名とし、受講生は「市内に住所を有する者であり、かつ市内において生活支援等の介護サービスを行っている者または行おうとする者及び市内介護事業所に就労している者または就労しようとする者。」としている。研修開始にあたり、民間企業の実施している初任者研修の受講料(6万～10万円程度)を参考に受講料について検討を行い、2万円(テキスト代含む)とし、受講しやすい環境を整えている。本報告では、【調査①】受講生に対する研修終了後アンケート結果および【調査②】研修終了後就労状況アンケートの結果を報告する。

表1. 初任者研修カリキュラムと時間数

研修科目	時間数
職務の理解	6
介護における尊厳の保持・自立支援	9
介護の基本	6
介護・福祉サービスの理解と医療との連携	9
介護におけるコミュニケーション技術	6
老化の理解	6
認知症の理解	6
障がい理解	3
こころとからだのしくみと生活支援技術	75
振り返り	4
(修了評価)	1
計	160(161)

1. 研究方法

【調査①】

1) 調査対象と方法：調査対象は平成27～29年までの3年間に初任者研修を受講した50名の内、修了した49名(回収率100%)。

2) 調査内容：調査対象者の属性(性別、年齢)、受講開始時における介護経験の有無、受講開始時介護職員として勤務していたか、研修を知ったきっかけ、講義内容の満足度、講義内容の程度、講義を担当した講師について、参加

*連絡先：合田衣里 新見公立短期大学地域福祉学科 718-8585 新見市西方1263-2

費、学習への取り組み状況と今後の希望で構成した。

3) 分析方法：初任者研修修了後に行ったアンケート結果を集計し、分析した。

【調査②】

1) 調査対象と方法：調査対象は平成27～29年までの3年間に初任者研修を受講した50名の内、修了した49名である。調査票は各研修終了3～4か月後に受講生へ郵送し、回答を求めた。調査票は無記名自記式とし、記入済みの調査票は受講生自らが投函し回収を行った。

2) 調査内容：現在介護関係の職場に勤務されているか、介護職員初任者研修は、今の生活やこれからの生活に役立っているかで構成した。

3) 分析方法：アンケート結果を集計し、分析した。

4) 倫理的配慮：受講生へ調査依頼と調査目的を口頭および書面で説明した。調査対象者には回答は無記名であること、調査目的、統計処理により個人の匿名性が確保されること等を説明し、調査票の回収をもって調査協力への同意が得られたものとみなした。

II. 結果

本研修には講師として本学教員のみならず、行政機関や福祉事業所の外部講師が参加した(表2)。これは、研修を通して地域専門職と受講生のつながりを目指したものであり、岡山県介護支援専門員協会新見支部・スマイルソーシャルワーカーズ新見・岡山県介護福祉士会新見地区の協力の下で実施することができた。また、受講生の学びを深めるとともに、新見市内にある事業所を知ってもらうことを目的に130時間の研修外に見学実習(4時間)を行った。見学実習は、協力の得られた特別養護老人ホーム・グループホーム・デイサービスセンター計5事業所で実施した。

表2. 3年間(2015年～2017年)の講師数(実数)

年	研修期間	外部講師 人数	本学 教員
2015	8/22～1/23	19	7
2016	7/9～12/17	19	7
2017	7/1～12/2	21	7

【調査①】

平成27～29年までの3年間に初任者研修を修了した受講生49名の性別における割合は、男性14名(29.0%)、女性35名(71.0%)であり、平均年齢は45.1歳(標準偏差:13.9、範囲:18-71)であった。また、受講開始時における介護経験の有無について回答を求めた結果、「あり」26名(53.0%)、「なし」23名(47.0%)であり、受講開始時介護職員として

勤務していたかについては、「はい」19名(39.0%)、「いいえ」30名(61.0%)と4割程度の受講生が受講開始時には介護職員として勤務していた。

この研修を知ったきっかけ(複数回答可)は、「職場で聞いた」16名、「知人から聞いた」10名、「チラシ」9名、「そのほか」8名、「新聞」6名、「ホームページ」3名、「行政からのすすめ」2名の順であり、職場や知人から聞いたという回答が多かった。

講義内容の満足度について「大変満足した」から「不満がある」の5件法で回答を求めたところ、「大変満足した」25名(51.0%)、「満足した」21名(43.0%)、「一応満足した」3名(6.0%)、「多少不満が残る」、「不満がある」は0名であった。

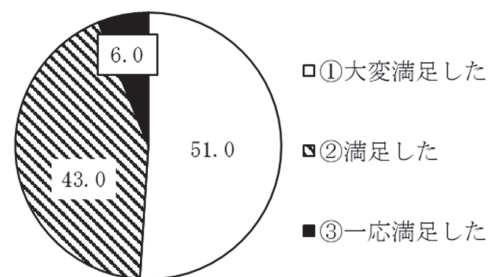


図1. 講義内容の満足度

講義内容の程度について回答を求めた結果、多かった回答は「難しかったが何とかついていけた」26名(53.0%)、「ちょうど良かった」21名(43.0%)であった。講義を担当した講師について(複数回答可)は、「説明が上手である」34名、「よく準備ができていた」27名、「十分な知識がある」26名、「困ったときにすぐ対応した」25名の順で回答が多かった。

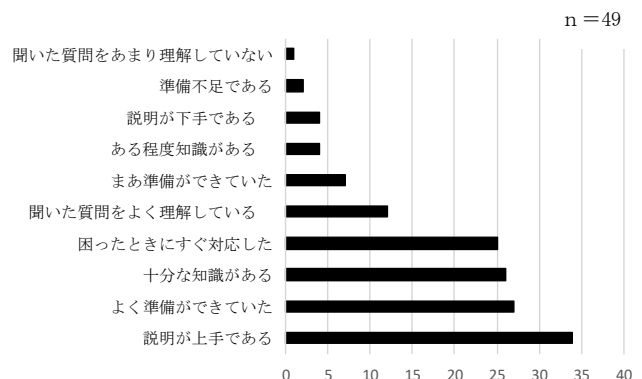


図2. 講義を担当した講師について(複数回答可)

参加費については「安いと思った」の回答が42名(86.0%)を占めていた。自由記述には「他と比べてとても安い」「一

新見市介護人材確保事業初任者研修の報告

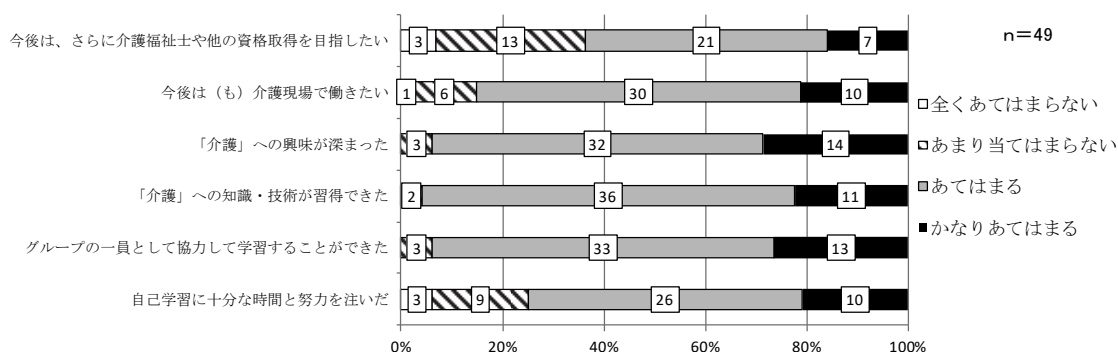


図3. 学習への取り組み状況と今後の希望

般の研修に比較して比べ物にならない金額。市のサポートに感謝」という回答が多かった。

学習への取り組み状況と今後の希望についての各質問項目について、「全く当てはまらない」から「かなり当てはまる」までの4件法で回答を求めた。【自己学習に十分な時間と努力を注いだ】、【グループの一員として協力して学習することができた】、【「介護」への知識・技術が習得できた】、【「介護」への興味が深まった】、【今後は(も)介護現場で働きたい】の項目では、「当てはまる」、「かなり当てはまる」と回答した人が7割を超えていた。また、【今後は、さらに介護福祉士や他の資格取得を目指したい】の項目では、「当てはまる」、「かなり当てはまる」と回答した人が6割を超える結果であった。

【調査②】

初任者研修を修了した受講生49名中27名(55.1%)から回答を得た。

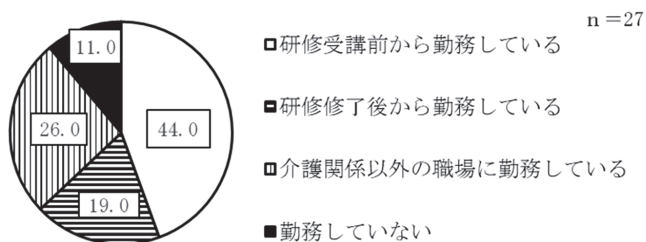


図4. 現在、介護関係の職場に勤務しているか

現在介護関係の職場に勤務されているかの問いに対して、「勤務している(研修を受講する前から)」の回答が最も多く12名、ついで「勤務している(研修を修了してから)」であり5名であった。また、介護職員初任者研修は、今の生活やこれからの生活に役立っているかの問いについては、「今役立っている」22名、「これから役に立つと思う」9名であった。さらに自由記述には、福祉委員や社協

生活支援員、ボランティアとして活動していることや、定年後に介護の仕事をしたい旨などが回答されていた。

III. 考察

1) 受講生満足度

講義内容の満足度については、すべての受講生が満足したと回答していた。また、講義内容の程度について多かった回答は、「難しかったが何とかついていけた」、「ちょうど良かった」であった。研修開始時に介護経験がないと回答した人は半数、一方介護職員であると回答した人は4割程度であり、受講生によって研修以前の知識に差があったことが回答に影響したのではないかと推察される。さらに講義を担当した講師についての回答では、良い印象を持つ受講生が多かった。これらを考慮すれば、研修内容としての受講生の満足度は高かったと評価できると考える。

2) 学習への取り組み状況

受講生の自分自身の学習への取り組み評価について、「かなり当てはまる」「当てはまる」の肯定的な回答が多かったものは【「介護」への知識・技術が習得できた】47名(96%)、【「介護」への興味が深まった】46名(94%)、【グループの一員として協力して学習することができた】46名(94%)であった。本研修は定員が20名であり、頻繁に行われたグループワークでは、1グループが5人程度と少人数であった。また、受講生の年齢は18歳から71歳と幅広く社会経験や介護の経験にも差がみられた。そのため、グループワーク時には様々な角度からディスカッションが出来るように工夫しグループ分けを行った。その結果、多くの受講生がグループの一員として主体的に参加し、介護の知識や技術の習得にもつながったのではないかと考える。

3) 今後の就労希望

【今後は(も)介護現場で働きたい】の質問について、「かなり当てはまる」「当てはまる」の肯定的な回答をした人が40名(85%)、「全く当てはまらない」「あまり当てはまらない」と回答した人は7人(15%)であった。さらに【今

後は、さらに介護福祉士や他の資格取得を目指したい】の質問では、「全く当てはまらない」「あまり当てはまらない」と回答した人が16人（36%）であった。本研修は新見市内の介護人材の育成を目的に行ったため、介護職員や今後介護職員として就職を希望している人のみならず、家族介護者や介護の勉強をしたい人など受講生を幅広く募集した。そのため、本研修の受講目的が個人により異なることが推測され、今後の就職や資格取得といった項目については「全く当てはまらない」「あまり当てはまらない」の回答が認められたと考えられる。

4) 新見市内で初任者研修を行った意義

初任者研修は新見市内の介護人材の育成を目的に行った。また、実施に当たっては地域専門職と受講者のつながりを目指し、本学教員のみならず行政機関や福祉事業所の職員が講師として研修へ参加した。受講生は実際に新見市の福祉事業所に勤務する専門職の講義を受けることで、介護職への具体的なイメージの形成ができ、介護士への動機づけにつながったと考えられる。さらに参加した講師からは、「再勉強の機会になって良かった」等の声が聞かれ、講師として日ごろの実践を基に指導することは福祉事業所に勤務する講師にとっても有益であったと考えられる。

また参加費については、民間の同一研修と比べて非常に安いと感じる人が多く、「新見市が行っている研修だからだ」との回答も複数認められた。新見市では初任者研修を行っている民間事業所がなかったため、他地域での受講を考えると、受講料とは別に交通費がかかることが想定され、新見市内での研修は意義があったと考える。

初任者研修修了後の受講生の就労状況を把握することを目的に実施したアンケート調査【調査②】では、現在介護関係の職場に勤務されているかの問いに対して、「勤務している（研修を修了してから）」の回答が5名であり、本研修をきっかけに介護関係へ就職した人が5名いたことが考えられる。また、介護職員初任者研修は、今の生活やこれからの生活に役立っているかの問いについては、すべての受講者が「役に立つ」と回答している。自由記述の内容も鑑みると、新見市で行った介護職員初任者研修は新見市内の介護人材の育成につながったのではないかと考える。

謝辞

本研修にご協力を賜りました講師の先生方に深く感謝いたします。